

## 第二節 災害の記録

町の地勢は、急峻で尾根や谷が多く、急流をなす河川、粘着力の弱い表層地層、断層を起しやすい第三紀層など、土石流や地すべりという大規模な災害の危険をはらんでいる。

町では、土石流、地すべり、高潮による災害や山林火災など過去に多くの災害が発生している。特に、昭和五十一年九月の台風一七号による集中豪雨では、大部地区で一時間の雨量八〇ミリメートルという町最大の降雨記録を示し、死者六名という惨事となった。

### 1 地すべり災害

町内には地すべり危険区域があり、明治以降大きなもので七件の地すべり災害が記録されている。

明治十五年九月には民家五戸が倒壊し、農地約五〇ヘクタールが、また大正九年五月、昭和十七年八月更には二十九年六月に五ヘクタールの農地と水路、道路、ため池などが被害を受けた。

昭和四十年六月に起きた肥土山地すべり被害は、その最大のものである。同年六月から七月にかけての二七七ミリメートルの連続降雨により、肥土山地区一三ヘクタールに地割れが発生。九月十日の台風二三号に伴う二〇一ミリメートルの降雨により、地割れが一八線、延長二五〇〇メートルに達した。続いて九月十三日から十七日に襲来



崩落した肥土山地すべり地帯の一部

した台風二四号に伴う四三一ミリメートルの降雨により各所で陥没、崩壊が相次いだ。このため十六日一三時三〇分に伝法川北岸の四三戸に避難命令が出され、十八日には同川南岸の民家八〇戸に避難勧告が出される事態となった。被害は、地すべり指定面積五三・八ヘクタールのうち三三・九ヘクタールに及び、関係戸数は被害率一〇〇パーセントが四〇戸、同五〇パーセントが八〇戸となった。

被害総額は一〇億円に上り、特に肥土山地区は全国的にも最大規模といわれ、危険地域に住む住民は家財を放置して避難し、小学校の移転を余儀なくされるなど甚大な被害となった。災害救助法が発令され、黒岩地区に避難者に対する災害住宅が建設された。

### 2 土石流災害

#### 台風一七号（昭和五十一年）

昭和五十一年九月十日、大型で強い勢力をもった台風一七号は沖縄奄美大島を暴風圏内に巻き込み、鹿児島島の南西海上に停滞した。この停滞により台風の東側に位置した香川県へ南から湿った空気が流れ込み、県内全域に未曾有の豪雨をもたらした。豪雨は小豆島全体に及んだが、特に東部、東北部及び南部ではバケツをひっくり返したと表現される降雨が続いた。



土石流被害状況

大部地区では、六日間で年間雨量に匹敵する一三四〇ミリメートルを記録し、十一日には二四時間の連続雨量が七二五ミリメートル、同日一三時から一四時までの一時間の雨量は八〇ミリメートルという町最大の降雨記録を示した。昭和四十九年の内海町を中心とした災害に続く土石流災害であった。

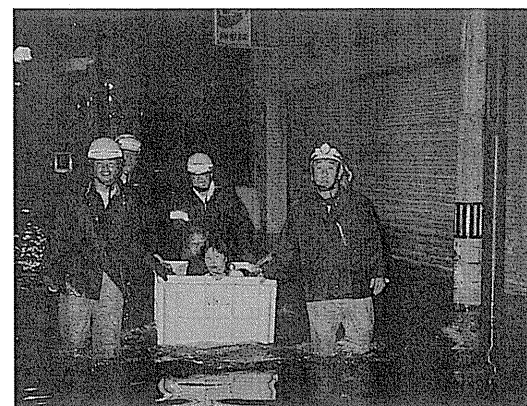
町の被害は町全域に及び、死者六名、建物の全半壊五四戸、床上下浸水九二九戸、農作物の被害面積三八二ヘクタール、被害金額二億四〇九一万九〇〇〇円、公共土木、農地等被害金額は二億八二四〇万円という未曾有の大災害となった。この台風により、町内の諸行事は取り止めあるいは自粛し、町は以後の数年間に災害復旧に全力を傾注することとなった。

### 3 高潮災害

台風一六号（平成十六年）

平成十六年八月三十日、台風一六号の影響で小豆地区は未明から暴風雨圏に入り、暴風、波浪警報に続いて大雨、洪水警報、高潮警報が発令された。台風の再接近と大潮の満潮時が重なって土庄東港では観測史上、記録的な二・五一メートルの実測最高潮位（警戒潮位二・一七メートル）が観測された。潮位上昇が深夜にわたったこともあって、低地では広範囲の海水浸入によつて家財、商品、機材などが甚大な被害を受けた。

被害概況は、浸水面積二・五七平方キロメートル、床上浸水六九八



高潮からの救出状況



北側上空から見た豊島山林火災の様子

### 4 山林火災

豊島山林火災（昭和六十一年）

戸、床下浸水六一五戸、し尿汲取り八四二件・四三八キロリットル、家電処理一九八三台、畳処理四〇〇〇枚、不燃ごみ処分三六〇〇立方メートル。

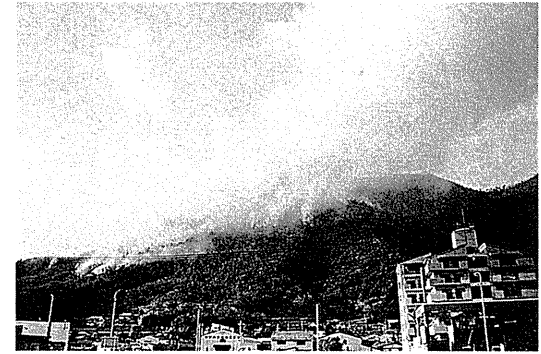
昭和六十一年八月二十八日、豊島甲生地区の県道上で車両交通事故により出火、山林に延焼、拡大した。町災害対策本部が設置され、小豆消防本部小豆三町消防団、県消防航空隊、自衛隊、自治会等が消火活動を行い、出火から一週間後の九月四日に完全鎮火となった。

被害状況は、焼失面積一二八ヘクタール、死者一名、負傷者六名、損害額七三五〇万円。出動状況は、出動延べ人員五五五五名（消防団員二二九四名、消防署員一二三名、広域応援隊員二一八名、警察署員一〇四名、その他二八一七名）。出動車両延べ台数は、消防ポンプ自動車七七台、小型動力ポンプ七二台、その他車両六一台、ヘリコプター一機である。

皇踏山山林火災（平成八年、十一年）

平成八年四月九日、淵崎地区皇踏山西側から山林火災が発生。小豆消防本部が出動、土庄町災害対策本部が設置され、小豆消防本部、小豆三町消防団、広域消防航空隊、自衛隊、自治会等が消火活動を行い、十二日に鎮

## 第2編 安全・安心、やすらぎの町



南側から見た皇踏山山林火災の様子（平成11年）

火した。

被害状況は、焼失面積四七ヘクタール、負傷者三名、損害額四〇九〇万円。出動状況は、出動延べ人員二四七五名（消防団員一八二二名、消防署員一九六名、広域応援隊員六三名、自衛隊員一六一名、警察・町職員二三三名）。出動車両延べ台数は、消防ポンプ自動車四九台、小型動力ポンプ九六台、自衛隊車両三二台、その他車両三五台、ヘリコプター一〇機である。

また、平成十一年二月十四日には淵崎地区皇踏山南側から出火した。土庄町災害対策本部が設置され、消防本部、三町消防本部、県、自衛隊、自治会等による消火活動が行われ、一三ヘクタールを焼いて十六日に鎮火した。損害額は四三〇万円。出動延べ人員は一三三七名で出動車両延べ台数は一五三台、ヘリコプター一三機出動である。